



泉だより

vol. 66

発行／医療法人 栄和会 広報委員会

2017.9月



今年度の栄和会夏祭りは和太鼓やフラダンスの演舞をはじめ、盆踊りでは地域の皆様方と一つの輪となり大変盛り上がりしました。バザーの売上金は九州北部豪雨への義援金として寄付させていただきました。ご協力ありがとうございました。

夏祭り実行委員会

【栄和会 経営理念】悩める人を癒し、苦痛を和らげ、心を慰め、そして病気の予防を

IZUMIKAWA LIVE 2017

開催されました。



平成29年7月22日(土)、泉川病院にて第8回目となります心臓カテーテル治療に関する研究会 (IZUMIKAWA LIVE 2017) が行われました。

オペレーターには、世界的に有名な湘南鎌倉総合病院 副院長 齋藤滋先生をお招きし、4症例の心臓カテーテル治療が行われました。

齋藤滋先生の最先端技術を駆使したライブデモンストレーションを見ながら、全国から参加して頂いた御高名な先生方と、これから循環器を担っていく先生方によりディスカッションが行われ、参加された先生方にとっては、非常に有意義な技術・知識の育成の場となりました。また、コメディカルセッションでは、写真や映像を見ながらのクイズ形式による熱い討論会が行われ、来場されたコメディカルの方々からも参考になったと喜びの声をいただきました。各セッションともに、ご来場いただいたゲストの先生方のおかげで大盛況となりました。

今年も同日に、「市民公開講座」と「心臓リハビリテーションライブ」が開催され、泉川院長先生による循環器講演、当院看護師によるAED講習がありました。

また、栄養教室も開催され、神戸の高橋病院、島原病院、池田病院の管理栄養士の方々によるディスカッションや、実際にご来場いただいた方へ、4施設のコラボによる減塩お弁当試食会も行われ、会場から美味しいとの声が上がりました。

平行して、「病院へ行こう」という、中高生・看護学生を対象とした病院見学会も開催され、50人以上の学生参加がありました。学生からは「将来の目標を再確認できた」、「人の役に立てる医療従事者を目指したい」という感想が聞かれ、学生にとって貴重な体験、また新たな進路へとつながるイベントとなったと思われます。

このような当院による催しが、長崎県および島原半島における循環器医療・救急医療のさらなる充実に貢献できたらと思っております。今後も、地域貢献・社会貢献ができますように職員一同団結し、邁進していく所存であります。

最後に、御多忙の中、御参加いただいた市民の皆様、医師・コメディカルの方々、また御協力いただきました医療関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

臨床検査技師 時津 直史
診療放射線技師 塩田 丈裕

Guest Operator

齋藤 滋 先生 (湘南鎌倉総合病院)

Special Guest

浅野 喜澄 先生 (刈谷豊田総合病院)

阿部 浩二 先生 (熊本労災病院)

大坂 薫平 先生 (京町内科病院)

大庭 百合賀 先生 (千早病院)

勝木 孝明 先生 (古河赤十字病院)

高川 芳勅 先生 (小樽私立病院)

高橋 玲比古 先生 (さくら会高橋病院)

竹下 聡 先生 (長崎みなとメディカルセンター市民病院)

中村 郁子 先生 (佐賀県医療センター好生館)

中村 洋文 先生 (千早病院)

西川 宏明 先生 (福岡大学病院)

則松 賢次 先生 (出水総合医療センター)

羽田 哲也 先生 (さくら会高橋病院)

原田 敬 先生 (北九州市立八幡病院)

弘永 潔 先生 (福岡市民病院)

本田 智大 先生 (長崎大学病院)

舩谷 元丸 先生 (はくほう会セントラル病院)

室屋 隆浩 先生 (嬉野医療センター)

矢加部 和明 先生 (虹が丘病院)

山岸 民治 先生 (ながさきハートクリニック)

山元 芙美 先生 (嬉野医療センター)

由布 哲夫 先生 (阿蘇医療センター)

吉田 敬規 先生 (佐賀県医療センター好生館)

※並びは、五十音順となっております。



第5回

市民公開講座

今年も市民公開講座を無事に終えることができました。

皆様に多くのものを持ち帰っていただきたいという思いで開催させていただきました。今年の内容は、院長による「心臓病・足の疾患の病気」、看護師による「AEDと心肺蘇生法」、栄養士による「心臓を癒す食事～心もお腹も満足に～」の構成で進めて参りました。院長の講義により多くの方に心臓や足の疾患について理解していただけたと思います。

また、インストラクターの資格をもった看護師による心肺蘇生法や、神戸の高橋病院と近隣の池田病院、島原病院から講師をお招きし、健康を維持するための食事の方法についての講演をしていただきました。これによって少しでも多くの皆様が、救急の対応や、普段の食生活の改善に興味をもっていただけたら幸いに思います。

栄養講座は、参加者の方々に手作りのお弁当を食べてもらいながら栄養士の討論会を行うなど、初めての試みがあったので不安を感じながら会を進めておりましたが、皆様の笑顔や、明るい表情を見ることができ、企画に参加できたことに感謝しています。行き届かないこともあり、ご迷惑をお掛けして、申し訳なく思いますが、第5回の市民公開講座が無事に終えることができたことは、ひとえに皆様のご協力、ご支援あつての賜物と心よりお礼申し上げます。これからも地域住民の皆様の尽力となれるよう前に進んでまいりますので、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

臨床工学技士 岩永 瑞希



今年の心臓リハビリテーションLIVEでは「再発予防と心臓リハビリテーションと運動」というテーマで講演と参加者の方と共に実技体操を行いました。

まず、心臓リハビリテーションが心臓の血管病に対して再発や悪化を予防するのに有効であることや日々の運動方法についてお話ししました。また、実技では初の試みとして「椅子ヨガ」を取り入れ、参加者からは「ヨガは初めてで、家でも続けていきます」「体が硬くなっているのが非常に役立ちます」との声をいただきました。日々の運動の参考にしていただければと思います。来年も心臓リハビリテーションライブを開催し、少しでも地域の皆様の健康づくりに貢献できるよう精進してきたいと思います。

リハビリテーション 藤原 健一



災害医療派遣訓練から 「平成29年7月九州北部豪雨」への出動

この度「平成29年7月九州北部豪雨」で被災された皆様に、心より御見舞い申し上げます。真夏が続く中、7月5日から7日までの3日間の予定で、「災害医療派遣訓練」を女性看護師の希望者5名を含めた14名で行いました。今回の訓練では初日の夜から口之津港で多くのスタッフの協力を受け、大規模災害の被災現場を想定して、被災者の救助・処置を行い、現地地図を頼りに誘導・避難を行う実践しながらの訓練を敢行しました。訓練はこれまでよりも明らかにペースが速く、課題だった「体力作り」も盛り込まれており、厳しい訓練を覚悟していましたが、降り出した強い雨に心を折られながら励みました。そんな中、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生、緊急出動

することになります。

日を超えた7月6日の午前1時ごろ、訓練中に一部隊員の携帯電話ニュースより福岡県朝倉市の大雨被害の情報を確認、被害状況の情報収集を開始。隊員間の話し合いで出動を決定。出動の準備を開始し、午前4時には病院を出発、午前8時過ぎには朝倉市寺内ダム上流に到着しました。

現地では、多量の雨とそれによる土砂崩れ、河川の氾濫により道路、家屋の崩壊を目の当たりに恐怖心すら芽生えました。隊員は捜索と救助の2班に分け雨が落ちてきている事を確認しながら、現地消防レスキュー隊と活動を開始、道路や橋は土石流や大量の流木により寸断され、車輦での通行は難しく徒歩で救助者を捜索、3名の救助者を発



見（一人は寝たきりの御老人で体の半分が土砂に埋まっておりました）、救助班はすぐに処置を行い避難所へ搬送。捜索班はダムの上流に寸断されている地域があるとの情報を得て上流へと進み続けました。川沿いにある道路はほぼすべて崩壊しており、道路にかかっている橋もすべて崩落、そのため、多数の孤立地域を確認。1時間ほど登ったところの対岸で、「SOS」と書かれた紙が自動販売機に貼られていることを発見、呼びかけを行う。そこには退路を全て寸断され孤立した避難者3名を発見しました（すべてのライフラインが寸断、携帯電話も不通。救助のためには橋が崩落しているため、濁流を超える必要があります）。私たちの力では救助は困難と判断、応援を呼ぶため出発地点まで戻り、到着した自衛隊へ状況を伝達し、自衛隊への間も孤立した場所に戻り、ヘリ救助の支援、孤立被災者に対してロープを使用したの支援物資（水、食料）の提供を行うなど、救援活動を行いました。時間は18時を過ぎ、辺りが暗くなってきたため現場での活動を終了して朝倉市内の避難所を巡回しました。避難所では保健師が対応しており、物資も届き落ち場では自衛隊が大規模な活動を

開始し始めたため、同日夜間に当チームは一旦帰院へ。帰院後チームは、休息を取っておりましたが7日の夕方、再び隊員間での話し合いを行い、まだ支援が必要な状況にあることを確認、7月8日朝6時に東峰村へ再出動。東峰村は山の合間にある村で、まず北部に位置する小石原地区に入りましたが、そこでの情報で南部に位置する宝珠山地区が医療支援を必要であることを確認、宝珠山役場へ移動。役場に情報収集、未だに医療班が入っていない避難所が3施設あるとのこと、保健所の依頼により、当チームは同地区を担当、同地区でも道路が寸断、河川が



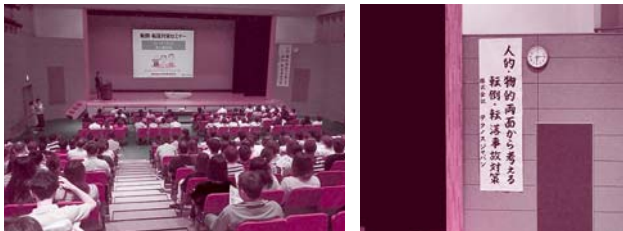
氾濫しており、車両の通行は困難、安全確保を行いながらバイク、徒歩で避難所に向かい医療支援を継続、同地区の開業医の先生とともに数日間医療支援を行いました。徐々に状態は安定、福岡県保健所、DMAT（厚生労働省や都道府県が設置する災害派遣医療チーム）、JMAT（日本医師会により組織される災害医療チーム）などと検討し体制を整え、その後も各避難所を訪問し診療活動を行いながら、慢性期に問題となる感染予防対策への取り組みを行いました。11日の夕方、メンバーは急性期の活動を終え、現地の方々とスタッフの方々からたくさん感謝のお言葉をいただき、無事に帰院することができました。私たちメンバーがこのような活動が行えるのも、病院で地域を守っていただいているスタッフ皆さま、また快く送り出してくれる家族のおかげと感謝しております。これからも訓練で安全な救助の技術を身に着けながら、支援活動を行って行く所存です。被災地の1日も早い復興を願っております。

災害医療派遣チーム

岩永 瑞希

医療安全研修会

平成29年 7月 4日 ふるさと伝承館



転倒・転落をテーマとしたセミナー研修が実施されました。入院患者や入所者の安全を守るために、当院でも転倒対策の1つとして、体感センサーを利用することがあり、種類や使用方法を実際に見て学び、安全管理のヒントになったのではないかと思います。

今後は、今回行って頂いたセミナーでの内容を活用し、更に患者・入所者に起こりうる危険を事前に「予測」「分析」していく事、また入院患者・入所者の安全管理をスタッフ全員で実行できるよう委員会メンバーを中心に働きかけを行っていきたいと思います。

リスクマネジメント委員会：吉永 みえ

感染症研修会

平成29年 6月13日 ふるさと伝承館

全職員対象の研修会が行われ、今回は大正富山医薬品(株)の安藤勝政先生にご講演して頂きました。腸管感染症と手指衛生を中心にされた内容で、中でもノロウイルスは18個のウイルスで感染が成立することを知りました。手指衛生は医療従事者にとって基本ですが、その基本をしっかりと守らなければ感染を大きく広げることになると分かりました。私も感染症が疑われる患者さんに接する機会が多く、手指衛生や適切な消毒方法を考慮し、医療従事者として感染拡大防止に努めたいと改めて感じました。

感染症対策委員会：中原 祐紀



地域清掃活動実施

7月8日(土)に地域清掃活動を実施しました。今回は南島原市加津佐町～雲仙市国見町にわたる国道251号線沿いを清掃しました。

職員約124名を午前と午後のグループに分けて行うことで、効率良くゴミを拾うことが出来ました。

当院では年2回ほどの清掃活動を開催しており、今までは地元深江町を中心に活動を行ってきましたが、今回から南島原市・島原市・雲仙市と島原半島全域に活動を展開出来ました。今後も島原半島の環境保全に貢献していきたいと思います。

エコ推進委員会：藤原 健一



職員紹介

2



永吉 真さん

永吉真 40歳。4月から看護補助者として2階病棟に勤務しています。泉川病院には平成11年に入社し、いろんな部署（経理・訪問介護 etc）での経験を活かし、中堅職員として頼りにされる存在になるよう日々の業務を頑張っています。

趣味はスポーツで身体を動かすことが好きです。特にマリンスポーツが好きで、20代からサーフィンをしており、今からの季節は暇さえあれば海に行って遊んでいます。若いころは波があれば年中行っていました。結婚し家庭を持つと少しずつセーブしながら波乗りに行っています。最近では「SUP」にもハマリ、波がない時は子供たちと一緒に海へ行き、SUPに乗って楽しんでいます。院内の業務ではありますが小麦色に焼けて業務をおこない、体力にもそこそこ自信があります。そして意外な趣味として、「掃除」です。自宅の車庫をガレージ風にしており、良く模様替えや掃除などをしています。車庫とは違いテレビも設置し有意義に活用できる秘密基地として楽しんでおり、家族からは「家の掃除も手伝って」とよく言われます。

私の紹介もここまでとし、これからも基本的な介護だけでなく、患者さんの気持ちを第一に考え、細かい心配りを意識し、快適で安心・安全な環境を提供し、居心地の良い入院生活が送れることを目指し、医師・看護師業務をサポートできるよう努めて、患者さんの笑顔が見れるように質の高いケアをしていきます。よろしくをお願いします。

※SUP = Stand Up Paddleboard（スタンドアップパドルボード）頭文字をとって「SUP（サップ）」と呼ばれています



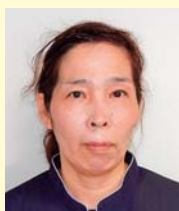
新人紹介



看護
菅 広子



看護
吉田こゆき



介護
松本 英恵



介護
橋本 恵美



介護
本田 翔太



健診
藤原 千穂



健診
吉中 美和



管理
山田 智裕

新任医師紹介



- ①氏 名 須山 尚史
②診療科目 呼吸器内科
③前赴任先 長崎みなとメディカルセンター
④ひとこと 平成29年度より長崎みなとメディカルセンターから栄和会泉川病院にお世話になっています。専門は呼吸器感染症領域ですが、呼吸器疾患全般において診療は可能です。呼吸器疾患患者さんがより良い生活を送ることが出来るように、当院においても他職種の皆さんと協力して診療体制を作り上げていきたいと考えています。

第8回



暑い時期が続きます。こんな時はフライパンひとつで簡単に料理したいもの。今回は夏野菜を使ったボリュームある一品をご紹介します！



豚肉と夏野菜の焼き漬け

材料 4人分

豚肩ロース肉厚切り	240g
おろししょうが	少々
片栗粉	適宜
なす	2本
ししとう	8本
みょうが	4本
揚げ油	適宜
A 酢	大さじ4杯
砂糖	大さじ2杯
減塩しょうゆ	小さじ4杯
赤唐辛子	少々

作り方

- ①豚肉は2等分に切り、おろししょうがをまぶす
- ②なすは4等分に切り、ししとうは竹串で2～3か所穴をあけ、みょうがは半分に切る
※全ての野菜を水にさらす
- ③Aを合わせておく
- ④200℃に熱した油で、片栗粉をまぶした①、キッチンペーパーで十分水気をとったなす・ししとう・みょうがを揚げる
- ⑤④を③に熱いうちに10分ほど漬けこみ、盛り付ける

1人分のエネルギー

	260kcal
たんぱく質	11g
脂質	15g
塩分	0.9g

豚肉は、夏に消費しやすいビタミンB1が多く、夏野菜のなす・みょうが・ししとうもカリウムが比較的少ないので、カリウムが気になる方も安心して召し上がれます。野菜は水さらしにすることにより、更にカリウムを減らすことができます。



カロリーアップのために肉・野菜は揚げましたが、甘酢につけることにより、塩分も控えて、さっぱりいただけます。



参考資料：2017オールガイド五訂増補食品成分表

乳がん検診を受けませんか

乳がん検診を受けやすい環境作りとして、乳がん検診（個人検診）のクーポン券の販売と、土曜・日曜乳がん検診を行っています。ぜひ、あなたとあなたの大切な人のために乳がん検診を受診していただきたいと思います。

乳がん検診 （個人検診）

クーポン券：料金 3,500円（通常 4,320円）

- 使用可能期間：ピンクリボン月間（10月中）または受診者様の誕生日
- 検査内容：マンモグラフィ＋乳腺エコー（女性技師対応）
- このクーポン券は泉川病院のみで使用可能です。
- 土曜日の乳がん検診を午前中のみ行います。（不定休）
- 日曜乳がん検診実施日：H29年10月15日（J.POSH ジャパン・マンモグラフィ・サンデーに賛同開催）
H30年1月21日・2月25日
- 利用可能な検診種類：市のがん検診（南島原市・雲仙市）・個人検診
- 検査項目：マンモグラフィ・乳腺エコー・視触診（マンモグラフィと乳腺エコーは女性技師が対応）

事前予約が必要です。ご不明な点はお問合せください。▶TEL 0957-72-2017（担当：健診室）

